

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		経営組織論特研 (Organization Theory Advanced Research)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
コア科目		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	火7	氏名 本谷るり											
		E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線																
授業の概要		経営学全般と経営組織論の知識を深め、理論を応用し、実社会に活用できる能力を身につけることを目指しています。 企業組織に対するさまざまな側面からの理論や分析視点を獲得することに加えて、受講生各自の視点や考えを出し合い、共有し、議論を深めることによりそれらを達成します。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 経営組織論のさまざまな理論の習得									○									
目標2 理論を活用し企業を分析する視点の習得										○								
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス(講義の進め方、準備するものなどの説明をします)																		
2 経営学、経営組織論の枠組み																		
3 経営組織論の流れ(1)古典的組織論																		
4 経営組織論の流れ(2)近代的組織論																		
5 組織均衡																		
6 組織の構造(1)3つの基本形																		
7 組織の構造(2)ネットワーク、チーム																		
8 組織文化、経営理念																		
9 組織と人(1)モチベーション																		
10 組織と人(2)リーダーシップ																		
11 組織と人(3)インセンティブシステム																		
12 コンフリクト																		
13 組織学習、組織の知識																		
14 組織成長のモデル																		
15 組織と社会																		
ラック ニ ン イ グ ブ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				○ ○ ○ ○		積極的に討論に参加するようにしてください。				工夫 その 他の						
時間外学修 の内容と時間 の目安		準備 あらかじめ該当する文献を読んでから参加してください。 学修 報告担当者はレジュメや配付資料の準備をしてください。 事後 講義中の解説で分からないことがあれば、質問したり文献で確認したりしてください。 学修 参考文献を紹介しますので、興味があるものについてぜひ読んでみてください。																
教科書		用いる文献についてはガイダンスの際に提示します。 使用する文献によっては、講義の内容が前後することがあります。																
参考書		講義中に適宜お知らせします。																
成績評価の方法及び評価割合		評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
		レジュメ作成と討論の内容					50%	○										
		期末レポート					50%	○	○									
		積極的に講義の議論に参加してください。 学期末に講義の内容を反映したレポートを作成してもらいます。																
注意事項		毎回の授業でのプレゼン担当者を決め、レジュメを作成し内容について報告・説明してもらう形で進めます。担当者は授業の前半では内容を説明し、ポイントとすることをまとめてください。さらに疑問点や内容に関するコメントも記載してください。後半はそれらをもとにして受講生全員で討論を行います。																
備考		令和2年度までに「経営組織論特研」を受講済みの方は、受講できません。																
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式													
		マーケティング論特研 (Marketing Theory Advanced Research)						対面													
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
コア科目		2	1,2	経済学研究科 博士前期	前期	月6	氏名 松隈久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680														
授業の概要	マーケティング理論の理解と応用分析が中心となる。また、マーケティングリサーチ、ケース分析により、理解を深める。																				
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	マーケティングの基礎的理論を説明できるようになること。																				
目標2																					
目標3																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	マーケティング理論の理解(1)理論																				
2	マーケティング理論の理解(2)事例研究																				
3	製品政策(1)理論																				
4	製品政策(2)事例研究																				
5	価格設定(1)理論																				
6	価格設定(2)事例研究																				
7	流通政策(1)理論																				
8	流通政策(2)事例研究																				
9	プロモーション(1)理論																				
10	プロモーション(2)事例研究																				
11	消費者行動(1)理論																				
12	消費者行動(2)事例研究																				
13	マーケティングリサーチ(1)理論																				
14	マーケティングリサーチ(2)事例研究																				
15	事例研究とまとめ																				
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○		受講生はレポートを作成し、教員はそのサポートを行う。					工夫その他の		マーケティングに関する時事問題については、資料を配付する。									
	B:意見の表現・交換		○																		
	C:応用志向																				
	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。(30h)																			
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べる。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。(20h)																			
教科書	黒岩、水越『マーケティングをつかむ(新版)』有斐閣(2018年)。 受講する方は、必ずテキストを入手してください。																				
参考書	Malhotra, N. K., Marketing Research , Prentice Hall, 2003																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート					100%															
新型コロナウイルス対策のために、遠隔授業にすることがあります。																					
注意事項	統計学を履修済みであることが望ましい。																				
備考	初回のガイダンスに参加してください。 新型コロナウイルス対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。																				
リンク																					
	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		経営情報論特研(Management of Corporate Information and Communication Systems Advanced Research)						対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
コア科目		2		経済学研究科 博士前期	前期	木3	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668											
授業の概要	モジュール化・ソフトウェア化・ネットワーク化というデジタル化の3つの要因が産業構造をしていかにレイヤー構造化するのか、代替理論に基づく破壊的イノベーションによる既存企業の対応戦略、既存事業を維持しながらデジタル化を進めていく方法、新たなバリュープロポジション（顧客価値）の作り方について具体的な事例を分析しながら基礎から理解していく。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	専門用語の理解							○										
目標2	基本的な原理の理解							○										
目標3	事例の企業のビジネスモデルの基本形を説明できるようになること。							○	○	○								
目標4	分析対象企業がバリュープロポジションをいかに実現しているのか理解し説明できるようになること。							○	○	○	○	○						
目標5	デジタルトランスフォーメーション（ICTを活用した事業変革）の方法パターンを理解し、説明ができるようになること							○	○	○	○	○						
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	オリエンテーション																	
2	産業構造へのインパクト・デジタル化の3要因																	
3	既存企業VS新規参入者																	
4	プラットフォームとバリューチェーンの複合化																	
5	デジタルディスラプション																	
6	プロセスの代替。代替の危機の4分類																	
7	4つの対応戦略																	
8	カニバリゼーションの克服																	
9	生存可能領域																	
10	バリューイノベーション 顧客価値の見直し																	
11	ブルーオーシャン戦略と価値曲線																	
12	バリューインパクト																	
13	サブスクリプションモデル																	
14	プラットフォーム型モデルの本質																	
15	総括																	
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	講義で取り上げる事例を分析して発表してもらい、ディスカッションします。				工 夫 そ の 他 の	英語の文献を使用することがあります。 発表担当部分だけではなく講義で使用する部分はしっかり予習ノートを作成してきてください。 事例に関連する動画を数回視聴します。Moodleを頻繁に使いま										
準備学修	経済ニュースに日々目を通して、テキストと参考資料を事前に読んできておいてください。																	
事後学修	講義が終了後必ず復習し、また疑問点について自分でもよく調べてください。																	
教科書	初回の講義で話し合ってから決めます。																	
参考書	根来龍之(2019)「集中講義デジタル戦略」日経BP ユルゲン・メフェルト,野中賢治 (2018)「デジタルの未来」日経新聞出版社																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	講義中の報告		30%	○	○													
	講義中のディスカッションへの参加		20%	○	○	○												
	最終課題レポート		50%	○	○	○	○	○										
注意事項	講義形式で60分はビジネスモデルの類型と特徴そして、モデルに該当する企業の説明をしていきます。 30分はディスカッションに当てます。ビジネスモデルの基本類型について理解し、分析力を高めてください。																	
備考	新聞や雑誌で話題の事例を講義の中でその都度紹介します。 教室での受講が難しい日には事前に連絡を下されば、教室と遠隔の併用で実施します。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	シンクタンクにおける講座の講師兼アドバイザー
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	両羽 大（VMware. INC）シニアストラテジスト ゲスト講師としてオンラインで仮想化技術を使用したDX事例について解説をしていただきます。
実務経験を いかした教 育内容	設計開発に携わったデジタルトランスフォーメーション事例の解説

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
		ベンチャー・技術経営論特研(Venturing & Technology Management Advanced Research)							対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
コア科目		2		経済学研究科 博士前期	前期	金7	氏名 渡邊 博子									
							E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702									
授業の概要	本授業では、日米のベンチャー企業や技術経営を対象に、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化を把握し、ベンチャー企業や技術経営の歴史や現状、成長過程とその課題、ベンチャー企業を創出・育成したり、技術経営を深化させたりするための手段や方法、ベンチャー企業や技術経営からみた今後の社会経済システムなどについて考察していきます。また、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションについても、その歴史や本質の理解を深めていきます。さらに、多くの事例研究を行うことでベンチャー企業や技術経営の実態および課題を明確にしていきます。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)									
目標1	ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会の構造やその変化を認識する。						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	企業や技術経営、イノベーションに関する知識を修得する。						○									
目標3	ベンチャー企業や技術経営を創出・発展させていくための手法について具体的に考える。						○	○	○							
目標4	場合によっては、自ら起業するための準備ができるような力を養う。						○	○	○							
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	ガイダンス(ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会)															
2	イノベーションの概念と重要性															
3	ベンチャー企業や技術経営の定義と歴史、アントレプレナーシップ、起業家像															
4	日本およびアメリカにおけるベンチャー企業および技術経営															
5	ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面(1)創出期															
6	ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面(2)発展期															
7	ベンチャー企業および技術経営の現状と課題															
8	ベンチャー企業および技術経営の促進方法(1)創出・育成															
9	ベンチャー企業および技術経営の促進方法(2)支援															
10	ベンチャー企業や技術経営における人材															
11	ベンチャー企業や技術経営の新たな側面															
12	日本のベンチャー企業・事例研究(1)モノづくり分野															
13	日本のベンチャー企業・事例研究(2)サービス提供分野															
14	アメリカのベンチャー企業・事例研究															
15	講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿															
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション				工 夫 そ の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞、雑誌、記事などの利用。								
	B:意見の表現・交換	○	レポート、事例研究など。													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30時間)														
	事後 学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)														
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。															
参考書	後藤見『イノベーション-活性化のための方策-』東洋経済新報社、2016年。 鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践-理論と実践シリーズ-』エコハ出版、2011年。 金井一頼・角田隆太郎編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年。															
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	授業における報告および議論の内容や取り組み姿勢	50%	○	○	○	○										
	期末レポートなどの内容	50%	○	○	○	○										
		以上のことをもとに総合的に評価します。														
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。															
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の人数や要望に応じて柔軟に決めていきたいと思います。															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		経営組織論特研 (Organization Theory Advanced Research)																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	金3	氏名 本谷るり											
		E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線																
授業の概要		経営組織論を基礎に、組織変革の実態と理論を文献と事例研究から学びます。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 経営組織の変革に関わる知識の修得、理論の理解									○									
目標2 理論を活用し組織を分析する視点の習得										○								
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス、経営組織論の枠組みの確認																		
2 経営組織の変革モデル(1)組織の発展モデル、ライフサイクルモデル																		
3 経営組織の変革モデル(2)エコロジーモデル																		
4 経営組織の変革モデル(3)戦略との関係																		
5 組織文化の変革(1)組織文化の機能と逆機能																		
6 組織文化の変革(2)シャインの変革モデル																		
7 組織学習(1)安定と変革																		
8 組織学習(2)変革の阻害要因																		
9 長期的発展モデル																		
10 組織化モデル(1)組織と組織化																		
11 組織化モデル(2)多様性とその削減																		
12 組織化のジレンマ																		
13 組織の継続と変革(1)老舗企業の組織変革																		
14 組織の継続と変革(2)均衡																		
15 組織の協働形態																		
ラック ニテン グ		A:知識の定着・確認		○		毎回レジュメを作成することにより、内容の理解に努めてください。授業時には積極的に討論に参加するようにしてください。		工夫 その他										
時間外学習 の内容と時間 の目安		準備 学修		1回の授業で1～数本の文献を使用します。それらを読みレジュメを作成の上、参加してください。毎回1～2時間程度。														
		事後 学修		関連する参考文献を紹介しますので、興味があるものについてはぜひ読んでみてください。毎回1時間程度。														
教科書		用いる文献についてはガイダンスの際に提示します。																
参考書		各回に用いる文献のほかに、関連する参考文献を提示します。																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法			割合		目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	毎回のレジュメ作成			50%		○												
	討論への参加とその内容			50%		○	○											
内容の理解に努め、積極的に討論に参加してください。																		
注意事項		経営学関連の各講義と経営組織論特研 を履修済みの方にお勧めします。																
備考																		
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
		マーケティング論特研 (Marketing Theory Advanced Research)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	火3	氏名 松隈久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680										
授業の概要	マーケティングの応用分析が中心となる。また、マーケティングリサーチ、ケース分析により、理解を深める。															
具体的な到達目標																
目標1	マーケティング理論の応用ができるようになること。					DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	Understanding Marketing Management															
2	Defining Marketing for the New Realities															
3	Developing Marketing Strategies and Plans															
4	Collecting Information and Forecasting Demand															
5	Conducting Marketing Research															
6	Creating Long-term Loyalty Relationships															
7	Analyzing Consumer Markets															
8	Identifying Market Segments and Targets															
9	Crafting the Brand Positioning															
10	Creating Brand Equity															
11	Addressing Competition and Driving Growth															
12	Setting Product Strategy															
13	Designing and Managing Services															
14	Introducing New Market Offerings															
15	Managing the Marketing Organization															
ラーニング 目標	A:知識の定着・確認	○	受講生はレポートを作成し、教員はそのサポートを行う。			工夫 その 他の	マーケティングに関する時事問題については、資料を配付する。									
	B:意見の表現・交換	○														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学習	英語テキストの内容について、事前学習を行うこと(30h)。														
	事後 学習	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べる。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと(20h)。														
教科書	(予定テキスト) Kotler, Keller, and Chernev, Marketing Management, Pearson 受講する方は、必ずテキストを入手してください。															
参考書	Malhotra, N. K., Marketing Research, Prentice Hall, 2003															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	レポート	100%														
注意事項	新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。															
備考	初回のガイダンスに参加してください。 新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。															
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式														
		ビジネスモデル論特研(Analysis of Business model Advanced Research)																				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	木3	氏名 松 岡 輝 美															
							E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668															
授業の概要	ビジネスモデルの概念や基本的な考え方をもとに特徴的なモデルのパターンを理解し、顧客価値の作り方や届け方の特徴やポイントを把握した上で、既存事業を革新する方法や、新たなビジネスモデルを創造する方法について学んでいくことが目的です。																					
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	基本的なビジネスモデルのパターンを理解する										○											
目標2	分析対象企業のビジネスモデルの構成要素を具体化できるよ										○											
目標3	ビジネスモデルキャンパスをかけるようになる										○											
目標4	ビジネスモデルマッピングができるようになる										○											
目標5	競合との差別化のための戦略を考え出す										○	○	○	○	○							
目標6	地域の特質を織り込んだ独自性のあるモデルの創造										○	○	○	○	○							
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1		オリエンテーション																				
2		ビジネスモデルとは何か ビジネスモデルとは何か ビジネスモデルと戦略論の関係																				
3		戦略モデルキャンパス 両利きの経営とは ビジネスモデル分析																				
4		規模の経済 範囲の経済 密度の経済 速度の経済																				
5		ネットワークの外部生 デファクトスタンダード デジタル化 モジュール化 レイヤー化																				
6		クラウド化 オープンソースブルー・オーシャン戦略 BOPモデル																				
7		戦略モデル事例分析1 ビジネスエコシステム シェアリング クラウドファウンディング																				
8		戦略モデル事例分析2 稼働保証モデル サービタイゼーション																				
9		戦略モデル事例分析3 パーソナライゼーション 消耗品モデル ロングテール																				
10		オペレーションモデル事例分析1 SPA BTO ダイレクトセル																				
11		オペレーションモデル事例分析2 オープンビジネス プロシューマー																				
12		オペレーションモデル事例分析3 顧客データ 顧客ライフサイクル 顧客ログイン																				
13		収益モデル事例分析1 従量課金 投げ銭 部分所有																				
14		収益モデル事例分析2 フリー フリーミアム サブスクリプション																				
15		収益モデル事例分析3 カスタマーロイヤルティー																				
ラーニングチェックポイント	A:知識の定着・確認	○	教室でのグループごとのディスカッションやZOOMを使ったオンラインでのディスカッションも行います。										工夫その他の	Moodleを日常的に使用します。 社会人の方は仕事の都合で大学までの通学が難しい日は教室とZOOMのハイブリッドで講義を実施します。 事前にご相談ください。								
	B:意見の表現・交換	○	事例を理解しやすいようにストリーミング映像やスライド資料をアップロードするので頻繁にMoodleを確認してください。																			
	C:応用志向	○																				
	D:知識の活用・創造	○																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	一部英語の文献を使用します。 事前にテキストやアップロードしている資料を読んでください。事例分析の企業についてのホームページや関連するニュースや記事をできるだけたくさん																				
	事後学修	講義内容を復習して課題の完成度を高める。(15h)																				
教科書	根来龍之 富樫佳織 足代訓史(2020)「ビジネスモデル」SB creatibe 近藤哲郎(2018)「ビジネスモデル2.0図鑑」KADOKAWA																					
参考書	チャールズ・A. オライリー、マイケル・L. タッシュマン他(2019)「両利きの経営学」東洋経済新報社																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	講義中のディスカッション		20%					○	○													
	講義中の事例分析発表		30%	○	○	○	○	○	○													
	最終課題レポート		50%	○	○	○	○	○	○													
	最終課題の作成に資する方向でディスカッションや分析発表を行ってください。																					
注意事項	事例を理解しやすいようにストリーミング映像や図表を使用します。 論理的に分析していくことを実践して基礎を固めましょう。																					
備考	Moodleをよくチェックしてください																					
リンク																						
	URL																					

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	シンクタンクでの会員企業コンサルティング、幹部候補養成講座のメンター
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	ゲストスピーカー 楽天グループ株式会社 長野慎一郎

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		経営管理論特研 (Business Administration Advanced ResearchI)						対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	月7	氏名 藤 原 直 樹										
							E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675										
授業の概要	経営管理論として、人的資源管理の問題を講じてゆきます。そして、この中心的課題として、昇進（キャリア）管理、ならびに、企業内における技能向上手段をとりあげます。対象は、一見、我が国とは対照的な雇用慣行を基礎に経営が行われているアメリカと旧西ドイツです。具体的には、両国では、そもそも内部労働市場が広範に存在しているのか、その深さはどの程度までが一般的であるのか、昇進と関連した企業独自の継続訓練はいかなる形で実施されているのか等が課題です。これらにより、我が国の人的資源管理の特徴が、より明確なものにもなるでしょう。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)										
目標1	内部労働市場とは何かを、経済学の観点より十分に理解すること。						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	アメリカのブルーカラーを対象として、企業内移動と技能向上手段を考察し、理解すること。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か																	
2 問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か																	
3 問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か																	
4 労働協約から見た内部労働市場																	
5 労働協約から見た内部労働市場																	
6 装置産業における企業内移動（１）																	
7 装置産業における企業内移動（１）																	
8 装置産業における企業内移動（２）																	
9 装置産業における企業内移動（２）																	
10 装置産業における企業内移動（２）-英語の研究論文読解																	
11 装置産業における企業内移動（２）-英語の研究論文読解																	
12 装置産業における企業内移動（２）-英語の研究論文読解																	
13 機械産業における企業内移動																	
14 機械産業における企業内移動																	
15 アメリカにおける内部労働市場の史的展開																	
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		個人報告と議論を行います。英文和訳も課します。		工夫その他の	この講義で英語の研究論文を取り上げるのは、これらを読解するための要点を理解し、習熟するという目的のためでもあります。					
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストの予習（３０h）															
	事後学修	授業内容の整理（３０h）															
教科書	小池和男『職場の労働組合と参加』 東洋経済新報社、１９７７年（但し、現在品切中）。これ以外に、短い英語の研究論文を使用します。また、総括の意味として、私の論文を取り上げるケースもあります。																
参考書																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	報告・発表の内容						50%										
	授業中の議論の内容						50%										
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)				授業形式																		
		経営戦略論特研 (Management Strategies Advanced Research I)									対面																		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																						
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	木6	氏名 仲本 大輔																						
							E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714																						
授業の概要		現代企業の経営に関わる諸問題を考察していくうえで、企業が進むべき基本的方向を定める経営戦略を知り、分析していくことは必要不可欠です。本講義では、文献輪読を通じて経営戦略の概念、経営戦略の見方などを習得することをねらいとします。																											
具体的な到達目標																DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1		習得した経営戦略論の分析枠組みにより、現実に行っている企業経営に関する問題を考察できるようになることです。																											
目標2																													
目標3																													
目標4																													
目標5																													
目標6																													
目標7																													
目標8																													
目標9																													
目標10																													
授業の内容																													
1		ガイダンス																											
2		経営戦略の概念																											
3		ポーターの論文																											
4		ポーターの論文																											
5		ハメル&ブラハラードの論文																											
6		バーニーの論文																											
7		ミンツバーグの論文																											
8		ブルーオーシャン戦略																											
9		ブルーオーシャン戦略																											
10		前半のまとめ																											
11		アーキテクチャ論																											
12		アーキテクチャ論																											
13		アーキテクチャ論																											
14		アーキテクチャ論																											
15		結び																											
ラック ニテ イン グ	A:知識の定着・確認				随時、具体的な企業のケースを相互に出し合い、各回で取り扱う理論からどのように分析できるのかをディスカッションします。						工 夫 そ の 他 の																		
	B:意見の表現・交換																												
	C:応用志向																												
	D:知識の活用・創造																												
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修	毎回、1本ずつ論文を読んでいきます。報告者を含め、全員読んでくるようにしてください(各回2h)。																										
		事後学修	毎回、復習をしてください(各回1h)。																										
教科書		DIAMOND/ハーバード・ビジネス・レビュー等から該当する論文をコピーします。また、適宜、学術雑誌等から論文をコピーします。その際には、受講者の希望を考慮します。																											
参考書		適宜紹介します。																											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	平常点					80%																							
	期末レポート					20%																							
注意事項		報告者以外の受講者も毎週、教材を読んでください。																											
備考																													
リンク																													
	URL																												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式														
KC40M207		経営戦略論特研 (Management Strategies Advanced Research II)																					
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期課程	後期	火2	氏名 仲本 大輔																
							E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714																
授業の概要		本講義は、経営戦略論特研 で習得した、経営戦略に関する様々な視座をふまえ、より専門的なテーマを取り上げて文献を輪読していくこととします。本年度は、社会課題や地域課題の解決に資するイノベーションのあり方、およびそれを開発し実行する企業の経営戦略を共に考えていくこととします。																					
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1		専門書や論文を読むことにより、企業の経営戦略はいかに変容していくのかを考えることができるようになる。																					
目標2																							
目標3																							
目標4																							
目標5																							
目標6																							
目標7																							
目標8																							
目標9																							
目標10																							
授業の内容																							
1		ガイダンス																					
2		テキスト・論文の輪読																					
3		テキスト・論文の輪読																					
4		テキスト・論文の輪読																					
5		テキスト・論文の輪読																					
6		テキスト・論文の輪読																					
7		テキスト・論文の輪読																					
8		テキスト・論文の輪読																					
9		テキスト・論文の輪読																					
10		テキスト・論文の輪読																					
11		テキスト・論文の輪読																					
12		テキスト・論文の輪読																					
13		テキスト・論文の輪読																					
14		テキスト・論文の輪読																					
15		テキスト・論文の輪読																					
ラーニング目標	A:知識の定着・確認						随時、企業の事例を相互に出し合い、輪読している論文やテキストで提示されている理論枠組みからどのような分析や考察ができるのか、ディスカッションします。				工夫その他の												
	B:意見の表現・交換																						
	C:応用志向																						
	D:知識の活用・創造																						
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修	毎回、論文1本分かテキスト1章分を読んでいます。報告者を含め、全員読んでください(各回2h)。																				
		事後学修	毎回、復習をしてください(各回1h)。																				
教科書		赤池学・水上武彦(2013)『CSV経営 社会的課題の解決と事業を両立する』NTT出版、名和高司(2015)『CSV経営戦略 本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する』東洋経済新報社、等を予定しています。他に、関連する論文を数編取り上げる予定です。																					
参考書		適宜紹介します。																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	平常点					80%																	
	期末レポート					20%																	
注意事項		経営戦略論特研 を履修済みか、経営戦略論に関する基礎的な知識をすでに習得していることがのぞましいです。																					
備考		受講者との相談の結果、取り上げるテキストを変更する可能性もあります。																					
リンク																							
		URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		企業論特研I(Company and Business Advanced Research I)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2		経済学研究科	前期	火6	氏名 河野憲嗣											
							E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679											
授業の概要	学術研究の対象として語られる企業に着目して、様々な視点から理解を深めます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	企業に関する学術的な考察や研究方法への理解を通じて、修士論文のテーマや問題意識を具体的に説明できる。						○											
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス(受講者の研究計画などのヒアリング、授業の進め方の説明等)																		
2 企業に関する理論(講義、討論)																		
3 現代社会における企業の意義と課題(講義、討論)																		
4 受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																		
5 受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																		
6 受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																		
7 企業の実例(大企業の特性に関する講義、討論、現地調査)																		
8 企業の実例(中小企業の特性に関する講義、討論、現地調査)																		
9 企業の実例(スモールビジネスの特性に関する講義、討論、現地調査)																		
10 ケーススタディ(大企業の事例を扱った講義、報告、討論)																		
11 ケーススタディ(中小企業の事例を扱った講義、報告、討論)																		
12 ケーススタディ(スモールビジネスの事例を扱った講義、報告、討論)																		
13 受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理																		
14 受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理																		
15 受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理 受講者数や進捗に応じて、内容を調整します。																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。他学生や様々な環境の中で学ぶ機会を設けます。				工夫その他の	毎回の授業でコメントシートの提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。										
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	指定した資料の読了など(事前30時間)																
	事後	講義内で得た気づきなどの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)																
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。																	
参考書	三戸・池内・勝部著『企業論』有斐閣アルマ 1999年 ミクルスウェイト・ウールドリッジ著『株式会社』ランダムハウス講談社 2006年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レポート	50%	○															
	平常点	50%	○															
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。																	
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の实務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、学術研究の対象としての企業について解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式											
		国際経営論特研 (International Business Studies Advanced Research)						対面											
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	1,2	経済学研究科 博士前期	前期	金6	氏名 加納 拓和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709												
授業の概要	本授業のねらいは国際的な学術誌に掲載された、国際経営論に関する研究論文（英語）を渉猟することを通じて、当該領域の基本的な知識を習得することにある。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	国際経営論の基本的な知識の習得							○	○										
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		ガイダンス																	
2		研究論文の輪読																	
3		研究論文の輪読																	
4		研究論文の輪読																	
5		研究論文の輪読																	
6		研究論文の輪読																	
7		研究論文の輪読																	
8		研究論文の輪読																	
9		研究論文の輪読																	
10		研究論文の輪読																	
11		研究論文の輪読																	
12		研究論文の輪読																	
13		研究論文の輪読																	
14		研究論文の輪読																	
15		研究論文の輪読																	
ラ イ ク ニ テ イ ン グ	A:知識の定着・確認	○	研究論文の輪読				工 夫 そ の 他 の												
	B:意見の表現・交換	○																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	・研究論文の精読 ・報告資料の作成																	
	事後学修	・授業内容の復習																	
教科書	輪読の対象となる研究論文は受講者と話し合って決定する。																		
参考書																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	研究論文の要約・授業中の発言					100%	○												
注意事項																			
		毎週、研究論文（英語）の精読及び報告の準備が必要となるため、相当の学習時間が必要となる。輪読の性質上、欠席は他の受講者に多大な迷惑が及ぶ。確実に出席できる（欠席する場合は前もって連絡できる）方の受講を望む。																	
備考																			
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	ITコンサルタント

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
KC40M218		国際経営論特研 (International Business Studies Advanced Research)																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2		経済学研究科 博士前期	後期	金2	氏名 加納 拓和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709											
授業の概要	本授業のねらいは国際的な学術誌に掲載された国際経営論に関する研究論文（英語）の輪読を通じて、当該領域の最新の研究動向を把握することにある。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 国際経営論の最新の研究動向を把握する									○	○								
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 研究論文の輪読																		
3 研究論文の輪読																		
4 研究論文の輪読																		
5 研究論文の輪読																		
6 研究論文の輪読																		
7 研究論文の輪読																		
8 研究論文の輪読																		
9 研究論文の輪読																		
10 研究論文の輪読																		
11 研究論文の輪読																		
12 研究論文の輪読																		
13 研究論文の輪読																		
14 研究論文の輪読																		
15 研究論文の輪読																		
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					○ ○ 	研究論文の輪読		工夫 その他									
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修																	
	事後 学修																	
教科書	輪読の対象となる研究論文は初回のガイダンスにて受講者と話し合って決定する。																	
参考書																		
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	研究論文の要約・授業中の発言	100%	○															
注意事項	毎週、研究論文（英語）の精読及び報告の準備が必要となるため、相当の学習時間が必要となる。輪読の性質上、欠席は他の受講者に多大な迷惑が及ぶ。確実に出席できる（欠席する場合は前もって連絡できる）方の受講を望む。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	ITコンサルタント

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		企業ファイナンス論特研(Corporate Finance Advanced Research)							対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	修士1年・2年	経済学研究科 博士前期	後期	月6	氏名 鶴 崎 清 貴 E-mail 内線												
授業の概要		「企業ファイナンス論特研」は、企業ファイナンスの基礎を学びます。本講義では、「評価」を学びます。「評価」とは、あるプロジェクトを実行するのか、買収するのかを、経営者がいかに決定するか、ということです。この決定のためには、「資本予算」、「投資」、そして「資本構成」の主要な問題を考察する必要があります。本講義は、将来、銀行・証券会社などの金融機関または企業（財務・会計担当）に勤たい学生や国家試験受験の学生には、有益です。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		企業ファイナンスの基礎を学ぶ							○										
目標2		ExcelやRで会計数値を計算することができる								○	○								
目標3		得られた会計数値を分析することができる								○	○								
目標4		実際の企業に応用することができる																	
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		イントロダクション																	
2		貨幣の時間価値																	
3		資金調達 株式と社債の評価																	
4		資本予算																	
5		債権の利回り1																	
6		債権の利回り2																	
7		不確実性とリスク																	
8		リスク回避と資産の収益性																	
9		期待収益率とリスク																	
10		ポートフォリオ理論																	
11		ポートフォリオ理論2																	
12		資本資産評価モデル(CAPM)1																	
13		資本資産評価モデル(CAPM)2																	
14		M&A																	
15		コーポレート・ガバナンス																	
ラーニング目標		A:知識の定着・確認				○	日経新聞やWSJの記事に関し、ファイナンスの立場から議論を深める。				工 夫 そ の 他 の	ハンドアウトを毎回配布し、課題を解答する							
B:意見の表現・交換				○	実際の会計数値を用いて、分析を行う。														
C:応用志向				○	実際の企業にファイナンスの理論を応用し分析する。														
D:知識の活用・創造				○															
時間外学習の内容と時間の目安		準備 学習	日経新聞やWSJを読み、課題を発見する。																
		事後 学習	課題を解答する。																
教科書		Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Edition (Prentice Hall) 資料は、Moodleから各自プリントして、講義に参加して下さい。 鶴崎清貴（2022）『Rによるコーポレートファイナンス入門』																	
参考書		市村昭三編『財務管理論』創成社出版,1995年 坂本恒夫・文堂弘之『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社, 2007. 古川浩一・蜂谷豊彦他『基礎からのコーポレート・ファイナンス』中央経済社, 2005.																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	授業内での発言					20%	○												
	課題・レポート					30%		○	○										
	期末テスト					50%		○	○										
注意事項		以下の要件が必要です。 1. 算数（電卓を用い、計算します）																	
備考		企業における財務担当者または公認会計士・税理士・証券アナリスト等を目指す生徒にとって有効な講義です。																	
リンク																			
		URL																	

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	公認会計士事務所顧問，金融機関の非常勤監査役
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		経営シミュレーション特研 (Management Simulation Advanced Research)																	
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	木6	氏名 松谷 葉子												
							E-mail matsutani@oita-u.ac.jp 内線 7701												
授業の概要		実際に経営するということはどういうことなのか。 マネジメントに関して、実例を元にディスカッションするとともに、実際に何らかのビジネスアイデアを形にすることで、具体的な経営シミュレーションを試みます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		ビジネスアイデアを具体的なプランとして具現化できる																	
目標2		事例に対して、経営的観点から考察することができる																	
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		ガイダンス（講義の進め方などを解説）																	
2		情報とは何か																	
3		リソースについて考察する																	
4		ターゲットを考察する																	
5		事業領域とアイデア																	
6		マーケティングを考察する																	
7		ビジネスアイデアの具現化1																	
8		ビジネスアイデアの具現化2																	
9		「成功」の定義																	
10		事業機会を分析する																	
11		ビジネスプラン研究1																	
12		ビジネスプラン研究2																	
13		ビジネスプランの策定1																	
14		ビジネスプランの策定2																	
15		プレゼンテーションと評価																	
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ		A:知識の定着・確認				事前準備の上、講義にのぞみ、積極的に討論に参加してください					工 夫 そ の 他 の								
		B:意見の表現・交換																	
		C:応用志向																	
		D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安		準備学修	毎回、課された課題に取り組み、レポートとして仕上げてください（15時間）																
		事後学修	自身のレポートの見直しを行い、討論結果を反映させたものを改めて仕上げてください（30時間）																
教科書		特になし																	
参考書		講義中に適宜お知らせします																	
成績評価の方法及び評価割合		評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
		講義中の議論内容や取り組み姿勢					50%												
		レポート課題					50%												
注意事項		ご自身の意見を持って討論に参加できるように、課題に取り組んでください																	
備考		具体的な内容は、要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています																	
リンク																			
		URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の实務 経験	経営コンサルタント、会社経営など
実務経験を いかした教 育内容	文献調査だけで完結しない、実践的な内容を心がけます

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
KC10M132		企業論演習(Company and Business Seminar)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2		経済	前・後		氏名 河野憲嗣												
						E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679												
授業の概要	企業の現場で起きている事象に着目し、研究対象としての企業像への理解を深めるとともに企業の本質をする研究の指導を行います。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	課題設定型・対象規定的方法論を理解し、修士論文の作成に活用できる。							○										
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	ガイダンス																	
2	企業研究の理論的アプローチ(講義、討論)																	
3	現代社会における企業論の意義と課題(講義、討論)																	
4	受講者による研究報告と討論1																	
5	受講者による研究報告と討論2																	
6	受講者による研究報告と討論3																	
7	企業の実例1(ゲストスピーカー招聘または企業訪問、新期上場企業を候補)																	
8	企業の実例2(ゲストスピーカー招聘または企業訪問、老舗企業を候補)																	
9	企業の実例3(ゲストスピーカー招聘または企業訪問、金融機関を候補)																	
10	ケーススタディ1(企業の形態に関する講義、報告、討論)																	
11	ケーススタディ2(企業の変遷に関する講義、報告、討論)																	
12	ケーススタディ3(企業の関係性に関する講義、報告、討論)																	
13	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理1																	
14	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理2																	
15	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理3 受講者数や進捗に応じて、内容を調整します。																	
ラ イ ク ニ テ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	○	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。他学生や様々な環境の中で学ぶ機会を設けます。				工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。										
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備学修	事前に指示した課題について、口頭で報告できるよう調べてくる(事前30時間)																
	事後学修	准后で言及した語句やテーマについて、文献などの原本をみて内容を確認する(事後15時間)																
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。																	
参考書	日置弘一郎『経営学原理』エコノミスト社 2000年 河野憲嗣『チェック・トランケーション研究』学文社 2013年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート		50%	○														
	平常点		50%	○														
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。																	
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。																	
リンク	個人ホームページ URL https://kenjikouno.jimdo.com/																	

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の实務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、企業の本質について解説します。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		比較経営史演習(Comparative Business History Seminar)							対面									
KC10M136																		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修		2		経済学研究科 博士前期	前期		氏名 渡邊 博子											
							E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702											
授業の概要	本授業では、日本経済の現状分析や歴史的展開、ならびに日本経済の成長を支えている（支えてきた）産業や企業を対象に、そのイノベーション過程や発展戦略の調査研究を行います。また、世界の中での日本の位置づけを理解したうえで、他国や他地域と同対象分野の比較研究も行います。幅広い観点や独創的な視点から、各自の関心や興味の対象分野を限定し、テーマの設定、文献・情報収集、実態調査とその分析、修士論文の取りまとめ、報告・発表（プレゼンテーション）などを実施します。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	受講生各自の調査研究のテーマを設定し、それにそった文献・情報の収集・分析、実態・実証研究の方法とその進め方を考える。							○	○									
目標2	報告や発表（プレゼンテーション）の仕方を学ぶ。							○	○									
目標3	修士論文を作成する。							○	○									
目標4	大学院修了後の進路（進学、就職、起業など）について考える。							○	○	○								
目標5	キャリアデザインを考え、キャリア向上のできる力を養う。							○	○	○								
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 演習																		
2 はじめに（概要及び進め方）、基礎的学習のための方法とその実践、研究計画の考案とその内容、研究方法の検討、																		
3 対象分野の概要と先行研究調査、対象分野の関連文献および情報収集、取りまとめとその成果発表など。																		
4 演習																		
5 はじめに（実施内容とその進め方）、修士論文の検討、事例研究、事例研究報告、進路指導とキャリアデザイン、取りまとめと成果発表など。																		
6 演習																		
7 はじめに（実施内容とその進め方）、修士論文の検討、修士論文の作成指導、進路指導とキャリア向上、取りまとめと成果発表など。																		
8 演習																		
9 はじめに（実施内容とその進め方）、修士論文の最終報告、進路指導とキャリア向上、修士論文のチェック、修士論文修正、これまでのまとめと成果発表など。																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	ディスカッション、プレゼンテーション、レポート、事例研究、フィールドワーク、インターンシップ、論文作成など。					工	夫	そ	の	他	の				
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修や報告準備（30時間）																
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解（15時間）																
教科書	使用しませんが、必要に応じて関連資料等を配布します。																	
参考書	橘川武郎・平野創・板垣暁編『日本の産業と企業 - 発展のダイナミズムをとらえる - 』有斐閣、2014年。 三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社、2006年。 関満博『現場主義の知的生産法』筑摩書房ちくま新書、2002年。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	授業時における報告および議論の内容や取り組み姿勢					30%	○	○	○	○	○							
	課題対応や修士論文の達成状況					70%	○	○	○	○	○							
以上のことをもとに総合的に評価します。																		
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																	
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の要望に応じて相談しながら決めていきたいと思います。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
KC10M140		経営管理論演習(Business Administration Seminar)							対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修		2		経済学研究科 博士前期	前期		氏名 藤 原 直 樹										
		E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675															
授業の概要	演習 ・ ・ :本演習では、経営管理論ならびに経営経済学に関する基本的な文献を輪読していきます。学説史的アプローチにより、経営管理論に関する理論的な知識の習得をめざします。																
	演習 ・ ・ :演習 ・ ・ で習得した理論と分析手法の展開を促し、修士論文の課題に結び付く指導を行います。																
具体的な到達目標																	
DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 修士論文の作成・執筆をめざします。																	
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 修士論文の作成・執筆のために(1)																	
2 修士論文の作成・執筆のために(2)																	
3 修士論文の作成・執筆のために(3)																	
4 修士論文の作成・執筆のために(4)																	
5 修士論文の作成・執筆のために(5)																	
6 修士論文の作成・執筆のために(6)																	
7 修士論文の作成・執筆のために(7)																	
8 修士論文の作成・執筆のために(8)																	
9 修士論文の作成・執筆のために(9)																	
10 修士論文の作成・執筆のために(1 0)																	
11 修士論文の作成・執筆のために(1 1)																	
12 修士論文の作成・執筆のために(1 2)																	
13 修士論文の作成・執筆のために(1 3)																	
14 修士論文の作成・執筆のために(1 4)																	
15 修士論文の作成・執筆のために(1 5)																	
ラーニング ポイント グループ	A:知識の定着・確認		個人報告と議論を行います。				工夫 その 他の	一人一人丁寧に指導します。									
	B:意見の表現・交換																○
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																○
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	毎回の報告書が必要です。(3 0 h)															
	事後 学修	授業内容の整理(15h)															
教科書		使用しません。															
参考書																	
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法					割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	報告書の内容					100%											
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式											
KC10M144		経営戦略論演習(Management Strategies Seminar)							対面											
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
必修		2	1	経済学研究科 博士前期課程	前期		氏名 仲本 大輔													
							E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714													
授業の概要		演習・では、修士論文作成のために必要な、経営戦略論や経営組織論を中心とする経営学関連の理論の習得を目指します。また、ケース分析も行うことにより、修士論文のテーマを絞り込んでいくことも視野に入れます。 演習・では、修士論文のテーマと論文構成を確定させると共に、原稿の執筆を本格的に進めていきます。そして、進捗状況や原稿の内容について頻繁に確認することにより、修士論文の完成を目指します。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1		演習・では、理論の習得と、修士論文のテーマをコンクリートなものにすること、になります。																		
目標2		演習・では、修士論文を執筆し、完成させることを目指します。																		
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1		演習・では、基礎的な文献(専門書や論文)を複数読み進めていくことで、経営戦略論や経営組織論の基本的な理論を習得します。																		
2		そのうえで随時、学習した理論をもとにケースの分析と考察も行います。さらに、修士論文のテーマ、および論文の構成を組み立てていきます。																		
3		演習・では、執筆する修士論文の原稿をもとにディスカッションを進めていきます。																		
4		そしてさらに文献研究を進め、事例研究の分析と考察を深め、またディスカッションをする、というループを繰り返していくことで原稿の改善を進めます。																		
5		最終的には修士論文の完成を目指します。																		
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
ラック ニ テ ン グ		A:知識の定着・確認		随時、具体的な企業のケースを相互に出し合い、ディスカッションしていくことにより、学んでいく理論の理解度を高めていきます。				工夫 その 他 の												
時間外学修 の内容と時 間の目安		準備 学修	毎回、論文1本分がテキスト1章分を読んでいます。報告者以外の人も全員読んでください(各回2h)。																	
		事後 学修	毎回復習をしてください(各回1h)。																	
教科書		受講者と相談して決めます。																		
参考書		適宜紹介します。																		
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合		評価方法				割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
		平常点				100%														
注意事項		他の経営学系の演習と合同でゼミを行う機会を数回持つことを考えています。																		
備考																				
リンク																				
		URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式																								
KC10M152		マーケティング論演習(Marketing Theory Seminar)						対面																								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																									
必修		2	1	経済学研究科 博士前期	前期		氏名 松 隈 久 昭																									
		E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680																														
授業の概要	マーケティング理論の理解と応用分析が中心となる。また、テーマに即した修士論文の作成を行う。																															
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	現代企業のマーケティング論を理論的に説明できる。																															
目標2	産業及び企業について事例研究を行うことができる。																															
目標3	修士論文の作成の準備をおこなう。																															
目標4																																
目標5																																
目標6																																
目標7																																
目標8																																
目標9																																
目標10																																
授業の内容																																
1	マーケティング理論の理解(1)																															
2	マーケティング理論の理解(2)																															
3	文献の収集方法																															
4	論文の書き方																															
5	製品戦略(1)理論																															
6	製品戦略(2)事例研究																															
7	価格戦略(1)理論																															
8	価格戦略(2)事例研究																															
9	流通戦略(1)理論																															
10	流通戦略(2)事例研究																															
11	プロモーション戦略(1)理論																															
12	プロモーション戦略(2)事例研究																															
13	研究レポート作成と論文指導																															
14	事例研究																															
15	論文の作成とまとめ																															
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	受講者は修士論文に関するレポートを作成し、教員はその作成をサポートする。					工夫その他の	関連する時事問題は資料を配付する。																						
	B:意見の表現・交換		○																													
	C:応用志向																															
	D:知識の活用・創造																															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読んで、予習を行うこと(10h)。																														
	事後学修	テキストを読んで、修士論文に利用できるところを整理すること(15h)。																														
教科書	黒岩・水越『マーケティングをつかむ(新版)』有斐閣(2018年)。小笠原『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社(2018年)。																															
参考書	和田・恩蔵・三浦『マーケティング戦略 第5版』(2016年)有斐閣																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																
	レポート					100%																										
注意事項	教務情報システムを毎回見てください。																															
備考	新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業になる場合があります。																															
リンク																																
	URL																															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
KC10M168		経営組織論演習(Organization Theory Seminar)							対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修		2		経済学研究科 博士前期	前期		氏名 本 谷 る り												
		E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707																	
授業の概要		演習Ⅰ・Ⅱでは、修士論文執筆のために必要な経営学や経営組織論の理論の習得を目指します。また修士論文のテーマ決定のためのディスカッションを継続的に行っていきます。 演習Ⅲ・Ⅳでは、修士論文執筆にむけた研究指導を行います。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		研究動機を修士論文研究テーマへと絞り込み、明確にすること							○	○	○								
目標2		研究の遂行と修士論文の執筆準備							○	○	○								
目標3		修士論文の執筆							○	○	○								
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		演習Ⅰ～Ⅱ：経営組織論の基本的諸理論を身につけるために、繰り返して基礎の文献を読みこなして理解を進めます。																	
2		さらに専門的文献を読み進めながら、修士論文のテーマ設定、骨子の作成、調査等の準備を行います。																	
3		演習 ～ ：研究に関わる文献をレビューし、研究テーマを明確化します。																	
4		研究に関わる調査等を実施し、分析と考察を進め、修士論文を執筆します。																	
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
ラック ニ ン グ		A:知識の定着・確認		○		修士論文にかかる研究内容のプレゼンテーションとディスカッションを繰り返します。					工夫 その 他の								
		B:意見の表現・交換		○															
		C:応用志向																	
		D:知識の活用・創造																	
時間外学習 の内容と時 間の目安		準備 学修		研究を進め、その内容についてプレゼンテーションする準備をしてください。必要な時間は進捗に応じて異なります。															
		事後 学修		演習後にディスカッションした内容を復習し、不足した部分について進めましょう。必要な間は進捗に応じて異なります。															
教科書		全回にわたって使用する教科書はありません。研究テーマと進捗に応じて必要な文献を提示します。																	
参考書		随時、示します。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合		評価方法				割合		目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10		
		研究と修士論文の進捗度				100%		○	○	○									
注意事項																			
備考																			
リンク																			
		URL																	